

石川・昭和町遺跡

しょうわまち

- 1 所在地 石川県金沢市昭和町
- 2 調査期間 一九九四年(平6)四月～十二月、二一九五年五月～八月

- 3 発掘機関 金沢市教育委員会

- 4 調査担当者 楠 正勝・増山 仁

- 5 遺跡の種類 城下町跡(武家屋敷・町屋地区)

- 6 遺跡の年代 弥生時代後期、江戸時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

昭和町遺跡は金沢城下町北西端、JR金沢駅東口の南側に位置する弥生時代と江戸時代の複合遺跡である。駅前の土地区画整理事業に伴い、三次にわたる発掘調査を実施した。



(金 沢)

江戸時代の絵図によると、調査地は武家屋敷地と町屋に該当する。武家地は三〇〇〇石ないし四〇〇〇石ク

ラスの下屋敷地か請地で、町屋は地子町となる。

調査の結果、弥生時代の竪穴建物・溝・土坑、江戸時代の掘立柱建物・礎石建物・ゴミ坑・井戸・用水路・屋敷区画溝などの遺構を検出した。遺物(陶磁器)は一七世紀初頭から幕末までのものがあり、火災(折違焼き・延宝五年(一六七七)の痕跡を確認した。

木簡は、第二次調査において土坑SK三六、落ち込みSX〇三、溝SD一二から各一点、及び遺構外から二点の計五点、第三次調査においてSK一四から一点、以上総計六点が出土した。

土坑SK三六は長径一・五m深さ一・四mを測り、円形を呈する。町屋の屋敷地裏手にある一九世紀前半のゴミ坑である。同様のゴミ坑は多数見られ、屋敷地内の空地に次々と掘られたゴミ坑の一つと考えられる。落ち込みSX〇三は自然の窪地で、弥生土器も出土している。

SD一二は、幅は検出面で七〇cm底面で三〇cm、深さは約二〇cmを測る。屋敷地(町屋部分)を区画する溝と考えられる。遺構の時期を示す遺物は出土していないが、関連する遺構から推察すると、一七世紀後半の遺構と考えられる。

SK一四は町屋の屋敷地前面にある一七世紀後半の土坑で、長辺約二m短辺一・五m、深さ一mを測り、隅丸長方形を呈する。

8 木簡の釈文・内容

一 第二次調査

SK三六

(1) 「木や
(焼印)
せ『五』りゆ
『川カ』」

径129×厚16 061

SXO三

(2) 「寿」

径102×厚6 061

SD二

(3) 「□□」

径121×厚7 061

遺構外

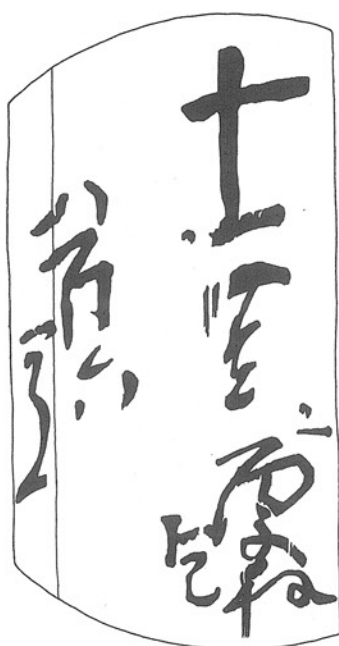
(4) 「河北三弥様
笹□□星野」

211×59×11 011

(5) ・「○十一」
・「○十一」

108×40×9 011

(1)は円形を呈する酒樽の蓋板材である。「木や」は文化八年(一



二(1)



一(1)



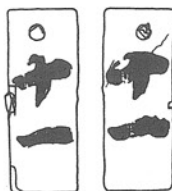
一(2)



一(3)



一(4)



一(5)

